

のべている。「自己の症例六〇〇例のうち、直接観察のできた三九三例において、直接死が七例あり、その中の六例は後出血死であった。後出血の多くは剝離の容易なものに見られたことは注目すべきである。結核菌を陰性化できなかった不成功例は二四・八％で、その原因は剝離の仕方の誤りと適応症の選択にあるという。合併症として空洞穿孔二一例（二・八％）で、大空洞に多く充填物の大型のものを使用した場合には穿孔が少ないという結論に達した。」

この学会を契機に充填術は急激に減少し、逆に充填球を抜き出し、形成術を加えるいわゆる抜球形成術が全国的に行われるようになった。

その後肺葉切除術が次第に安全となつて、結核外科は華々しく展開していくのであるが、戦後における結核死亡率の急速な低下の主役はストマイ、パス、ヒドラジッドなどの化学療法であつて、外科療法は脇役でしかなかったのである。そのくせ、外科療法のためにできた低肺機能という合併症は患者の社会復帰を今日なお阻み続けているのである。

（二期会藤倉病院）

48 北陸における医学検査技術者教育 に関する医史的考察

谷 島 清 郎

石川、富山、福井県からなる北陸の地に、医学検査技術者の学校教育が始まったのは昭和四十年四月である。金沢大学医学部附属衛生検査技師学校（附属学校）として発足した。平成二年でちょうど四半世紀を経たこととなり、それを機会に、学校の沿革とその医史学的背景を調査した結果について報告する。

学校の沿革

昭和四十年三月十八日（木）に第一回学力検査、十九日（金）に面接試験を実施し、附属学校の第一回入学式は四月十五日（木）であつた。新入生は二十名で、二年制の衛生検査技師の教育が開始されたが、昭和四十七年には学生募集を中止し、翌四十八年、第七回卒業生を最後とし

て発展的に閉校となった。昭和四十七年五月一日には、金沢大学医療技術短期大学部（医療短大）が新たに開設され、三年制の臨床検査技師の教育が始められ今日に到っている。

学校設立前史

学校教育法に基く医学検査技術者の教育が始まる以前に、医師や看護婦、診療放射線技師等ではない検査の専門技術者が、北陸地区にも存在しなかったわけではない。こうした技術者の育ってきた史的背景を、日本全国の発展と対比しながら概観すると、先ず明治四十四年、石川県庁内に衛生試験所（細菌検査部と薬品検査部）が設置されており、石川県職員録によると、職員として衛生技師、衛生技手、衛生技術員が存在した。大正十一年、石川県の県立病院が国に移管され、翌十二年、金沢医科大学（現在の金沢大学医学部）の発足により、その附属医院となったが、昭和四年には、この中に検査部ができている。医院規定には、検査員若干人を置くことあり、実際は基礎医学の教室に委託の形で配置された。

また、昭和九年からは、この附属医院の大里内科に、

病理組織作製担当の検査技術者が置かれ、一部の外来検査室に尿検査等の担当者が置かれたが、当時の担当者に対する直接面談では、見習いにより技術を習得したといわれる。なお、先の石川県衛生試験所細菌部には、昭和二年から中戸時雄という人が防疫監吏として実際に細菌検査に従事していたことが、本人への直接面談によつて明らかとなった。

検査に従事した人達の中には、もちろん、医師や薬剤師、獣医等もいたが、以上のように国や地方の吏員として勤務した人達が存在し、これらの技術者達は、当時の国立衛生試験所や伝染病研究所で行われた講習会に出席して細菌検査等の教育を受けている。

一方、一般病院に関しては、明治三十二年に金沢陸軍病院（現在の国立病院）が創設されており、大正、昭和にかけて、聖霊病院、結核療養所、済生会病院、金沢赤十字病院の母体、金沢市立病院、通信診療所等ができており、これらの医療施設にも技師、技手が存在した。これは、昭和二十年の第二次世界大戦終了後の各病院における検査室の中央化にもなつて増加し、昭和二十九年か

らは、日本臨床病理学会による臨床病理技術士資格認定試験が行われるようになって、石川県からも、基礎医学教室の技術者達が、教室の指導を受けて受験し認定を受けている。

その前年の昭和二十八年には、石川県衛生検査技術者会が組織され、講習会等の開催により資質向上に努めている。富山県は、前年に全国統合した日本衛生検査技術者会の支部を、やはり二十八年に結成、福井県は、二十七年に福井県衛生技術者協会を発足させている。なお、検査室の中央化は、金沢大学医学部附属病院の場合、昭和三十四年である。

以上のような医学検査技術者養成の背景をもって、昭和三十三年に公布された衛生検査技師法による学校養成所指定規則に即した附属学校が昭和四十年に設立された。この法律は、昭和四十五年に改正され、現在の臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律となつて、二年制から三年制の学校教育制度に変わったが、金沢大学の場合は、四十七年五月に直接三年制の医療技術短期大学部に改組された。

現在、三年制の臨床検査技師教育課程の中には、医学概論が指定されている。短期大学部の教育においても、見習いや講習会による教育から、二年制の専門学校教育、さらに三年制そして短期大学教育へと変遷してきた過程を医学史として医学概論の中にとり入れている。今後も、この地方史を充実させたい。

(金沢大学医療技術短期大学部衛生技術学科)